

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391200054		
法人名	有限会社 真和会		
事業所名	グループホーム諏訪の森		
所在地	熊本県上天草市姫戸町二間戸276-5		
自己評価作成日	平成26年2月19日	評価結果市町村受理日	平成26年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市中央区草葉町1丁目13番205号		
訪問調査日	平成26年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の人格を尊重し、在宅での生活と変わらない生活を送れるよう支援・介護を行っています。季節感を感じて頂ける様に、壁紙には季節に応じて折り紙にて花を飾り、毎月行事を行っています。地域の人達との交流による行事も行っている。
 食堂の窓からは、二間戸の海を眺望でき、地元で捕れた旬の魚を食事のメニューに取り入れ、利用者の方と共に畑を作り、自給自足の野菜を季節にそって提供しています。
 利用者の方の残存能力を維持し、自立した生活を送れるように体調管理、状態把握に努め、すぐに主治医との連絡が取れる様に連携をとっています。また、本人や家族の要望に応えられるように、関連施設との連携を図り、安心して過ごせる環境づくりに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の近くは地域の人々の散歩コース、海と山に囲まれ自然豊かで、日常的に地域との交流ができるような環境です。防災等について地元の方々との協力体制ができつつあります。
 法人全体での研究発表会が年2回開催されて、職員の質の向上や介護の在り方について日々研鑽を重ねられています。
 事業所独自の地域密着によるマイナス面にも目を向けて、会議等ではなかなか発言できないことや日頃疑問に思われていることについても配慮されて気持ちよく細やかな対応をされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしい生活を送る事が出来るような理念のもと個々に合せた生活支援を行っている。	毎朝のミーティングで唱和し、常時意見交換を行い情報を共有され、具体的なケアについての意見の統一が図られているようです。	理念の実現から、理念そのものについて話し合う場を設けられるのもさらなる質の向上につながると期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区役への参加、地区の奉仕作業への参加。町内行事への年間を通しての参加に努める。(初詣・どんどや・秋の例大祭・町内文化祭等)	事業所の地くに地域の散歩コースがあり、窓越しに地域の人たちと挨拶を交わしたり、話をしたりされるとともに、地区の行事にも参加されています。	地域の一員として更に地域の活動に参加し、必要とされる役割を果たされることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、地域に向けて、認知症の人の理解や支援方法等の講和は行っていないが、今後地域密着し、地域の方々に認知症について理解して頂き、地域と共に支援できるよう講和等を計画し、開催していくように努める。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催で、事業所からの報告と共に運営推進会議のメンバーの方も入居者の方と顔馴染みになられ、会議が終わった後も一緒にお茶を飲んで過ごされる事が多く、入居者の方の意欲向上に繋がっている。	第4月曜日の10時から開催され、行事の連絡や地域の催しへの参加報告などが行われています。参加者からの意見は多くはないようですが、会議終了後、身近な介護についての話や相談を受けられることが度々あるとのことです。事業所の存在の意味を地域の方々に理解して頂くための努力がなされているようです。	会議を通して地域との関係作りや地域における事業所の在り方を検討されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席、参加をお願いし、その場で事業所として制度等の問題を提起しアドバイスをいただき事業運営、サービスの改善・向上に努めている	市町村担当者の地域推進会議への参加が毎回あり、状況の報告やアドバイスを受けるなど協力関係はできています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、行っていない。また、身体拘束の定義、必要性を勉強会で学び、必要か不必要かを話し合い、必要と思われる場合は、医師の診断のもと、家族の了承を得るようにしている。	事業所では月1回のミーティングで勉強会を開催されています。同法人の他事業所と合同で内部研修も行われています。転倒予防が必要な利用者にはセンサーマットを使用されていますが、家族と話し合いを行い、了承を得るとともに同意を書面で得られています。	状況変化に応じてセンサーマットなどの利用時間や期間を検討されていくことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング、勉強会、研修会にて学び、注意を払い、防止に努めている。虐待は、起こっていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会、外部での研修会にて学び、制度を理解し、必要な方には話し合いの場を設け、説明し、支援を心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時に、入居者とそのご家族の方に入居に関する事項を説明し、不安や疑問点を聞き、理解し、納得していただき契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	遠方のご家族には定期的にお電話やお手紙で連絡を取り、また、家族会を設け、近隣の家族には来訪時に情報提供、及び意見交換の場を設け、行事等へ参加の呼びかけを常時行い、運営に反映させている。	年1回の家族会議を開催し、意見交換をされています。月1回の請求書等とともに手紙を添え、状況報告をされると共に、更新認定時には電話にて状況報告をし、家族からの要望を聞きとられているとのことです。家族が近隣在住の場合は面会時に要望を尋ねることが多いとのことです。	より多くの意見や要望を出して頂けるような工夫をされることを期待します。そのためにも事業所が提供されているサービスがきちんと伝わると思いますね。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体ミーティングで話し合い反映に生かしている。また、日頃から随時意見や提案しやすい環境に心掛けている。	ミーティングや申し送りで意見や要望を聞き、必要に応じて緊急の話し合いの場を設けているとのことです。全体ミーティングでは、意見がなかなか出ませんが、その後の雑談で話が広がることもあり、大切な機会と捉えていらっしゃいます。	運営や管理についての職員の声に耳に傾け、現場に活かしていくことで、働く意欲や質の向上に繋がります。より意見が出やすい雰囲気作りを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境整備ができています。また、相談事がある時は、相談に乗り、早期解決できるよう取り計らっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の法人内における研究発表や施設内勉強会を実施し、知識・技術の向上に努めている。また、外部研修への参加を呼びかけ、自己研磨に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と合同の勉強会を開催し、情報交換や活動報告を行い、サービスの質の向上をさせていく取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの相談や、入居者の不安や要望を傾聴し、受け止め、安心して過ごせる様に信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談、施設見学時、及び入居されてからも相談や要望を聞く機会を設け、説明し、出来る限りの要望に応え、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時より、ご本人の身体状況等を含めた情報の収集を行い、本人の能力を勘案したうえで、初期プランを作成し1週間程度は日中夜間の生活状況等の申し送りを密にし、サービス提供にあたっている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に入居者の能力に応じた家事労働を職員と共にいき、お互いに支え合う関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など、家族と共に支援できるように日頃の生活状況等を伝え、協力を得て一緒に支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や近所の方の面会時や、地域の行事等に出かけたり、定期的に馴染みの美容室への外出や、買い物支援を行っている。	入居時記録を基に、適宜書き加えられています。地域の祭りや行事にスタッフと共に参加されることもあり、事業所の周囲を散歩されている地域の方と挨拶や話をされています。また馴染みの美容院に通い続けている利用者や、自宅へ帰りたい利用者に対して外出・外泊支援をされるなど、一人ひとりの生活習慣を大切にしている支援がなされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は上手くできている。たまに口喧嘩が起こるが、その時は孤立させない様お互いの話を傾聴して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても、どうされているか近況を電話で尋ねたり、家族に会ったりして繋がりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に暮らし方や希望の意向を、本人、又は本人からの意向が困難な場合は家族から把握するように努めている。	更新時や面会時の機会をとらえ、利用者家族の思いや要望の把握に努めているとのことです。また利用者との日常の会話のなかで、利用者の意向を汲み取る努力をするなど、一人ひとりの思いや意向の把握に努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や面会時に、本人 または、家族より生活歴、利用されてきたサービス期間や内容を聞き、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況を観察し、残存能力や心身状態を職員が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・関係者と話し合い基本的な介護計画を作成し、ミーティングでその内容を職員と共有し、具体的サービス内容として生かすよう介護計画を作成している。	利用者や家族の意向を確認されたうえで、担当者が介護計画を作成されています。アセスメントやモニタリング、カンファレンスが実施され、状況の変化や希望の変化など随時見返しがなされています。	日頃の暮らしから発見されたことや観察から得られたことをご家族と共に共有し、ご家族も一緒に加わって頂くようなサービス提供、支援も考えてみられてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践・結果や気づいた事を記録に残し、情報の共有を図り、介護計画の見直しに生かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、ニーズに対応できるように主治医、他部署との連携を図り、柔軟な支援ができるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや消防機関等の協力を得て、安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の納得の得られた主治医との連携を取り、適切な医療が受けられる様に支援している。	法人の主治医による訪問診療が月2回あり、他科の受診を要する場合には主治医より家族へ説明があるとともに、他の医療機関の紹介も行われています。必要に応じて受診の付き添いや家族の状況によっては同行支援もされています。	適切な医療が受けられるように継続支援を期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師と連携が図れ、日常の健康管理や、本人の希望や状態等の情報を共有し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談に努め、安心して治療ができるように連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで	日頃より終末期のあり方を本人・家族と話し合い、本人・家族の意向に添えるように支援している。	毎年4月に行われる家族会で看取りについてのアンケートを取られるとともに、状況によっては直接家族に尋ねて対応されているとのことです。緊急連絡先を常に確認し、遠方の方には事業所で対応ができることや考えられることを具体的に説明され、家族の宿泊希望も受け入れられています。また勉強会を開催し、ターミナルケアについての理解を深めているとのことです。	本人と家族に納得していただき、安心して頂けるように繰り返し話をするなど継続して支援されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、全職員が慌てず対応できるように定期的に勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を遂行し、又地域の方の緊急連絡網を作成し協力が得られるような体制を築いている。	6月と12月の年2回実施されています。台風や火災を想定し、消防署と連携を図り、初期消火や通報、避難など昼・夜とを想定して訓練がなされています。隣保の方の訓練への参加もあり、利用者の誘導補助をお願いされています。また地域の自主防災組織があり、自治会より情報の提供が行われています。	一人ひとりの利用者の状態を踏まえ、災害時の具体的な避難策を検討され、訓練されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを傷つけない様、気を付け、対応している。また、記録の取扱いにも十分注意を払って、プライバシー保護に努めている。	外部研修への参加や法人合同での勉強会が実施されています。日常のスタッフ間での申し送りでは個人名を出さないなどの配慮しているとのことです。利用者の生活リズムを尊重し、心身の状態を勘案して声をかけるタイミングを変えるなど工夫されているとのことです。	日常的に人格尊重の大切さを確認されていくことを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表せる環境作りに努め、自己決定できるように本人本位の介護を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせた支援・介護を行い、その人らしい生活が出来ように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出困難の方の為に出張散髪の依頼も行っている。又、整髪・身支度の仕上げを職員が毎日行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の出来る範囲の手伝いをしてもらいながら、楽しく食事が出来るように、その人のペース・残存能力にあった食事を提供している。	法人の栄養士により献立は作成されていますが、事業所の菜園で収穫された野菜や家族の差し入れなどに応じて、適宜、状況に応じて変更があるとのことです。できる限り自力摂取をしていただけるよう、時間や摂取ペースを考慮しながら一人ひとりの状態に合わせて対応されているとのことです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立を使用し、個々の能力にあった食事を提供している。また、摂取状況や摂取量を観察・記録し、栄養バランスの取れた食事が出来る様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立を促し、出来ない方は、介助し、毎食後口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを記録し、出来る限り、トイレでの排泄が出来る様に支援し、排泄パターンや排泄量を観察し、その人に合った時間帯に誘導し排泄介助を行っている。	24時間のチェックシートを作成し排泄のパターンを把握されています。失禁などで服が汚れているときは傷つけないように声掛けをし、下履きを渡し、洗濯物と一緒に出していただくよう声をかけるなどの配慮を行い羞恥心の軽減に努められています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排泄チェックを行い、医師、看護師と連携を図り、便秘の予防に努めている。また、医師の処方の下剤を職員で管理し、取扱いに注意し 服薬してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望・意思を尊重し、入浴したい時に入浴出来るように支援している。	一番風呂、終わり風呂など要望に応じて対応しているとのことです。日に3名が午前と午後に分かれて、ゆっくり時間をかけて入浴され、介助の職員との会話も楽しめるよう支援をされているとのことです。夜間の入浴希望は出ておらず、状況によっては足浴手浴で対応しているとのことです。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思・希望に合わせて、休息、就寝して頂いている。また、寝具調整や室温管理し、気持ちよく眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方を把握し、目的や副作用、用法など、勉強会で学び、理解に努めている。また、誤薬しない様に注意し、症状の変化に対応できるよう主治医への連絡が取れる様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒にカラオケをしたり、歌を歌ったり、洗濯物をたたむ等、その人の能力を活かした役割を行ったり、月に1度は行事を行い、楽しみや気分転換を図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように	声かけを行い、本人の希望に添って出かけられる様に支援している。ご家族の協力を得て普段出掛けられない所にも外出・外泊できるよう支援している。	利用者のその日の朝の装いを見逃さず、その判断から外出希望先を把握されることがあるとのことです。事業所の菜園での畑仕事や、近くの浜辺への散歩は利用者の要望があれば毎日でも受け入れているようです。また地域の文化祭へ参加したり、家族の協力を得て外泊の要望にも対応していらっしゃいます。家族に対しても、車椅子の操作や移動介助の仕方について説明をするなど外出時の不安の軽減を図られています。	外出支援を進めていくことは事業所やな認知症に対する周囲の理解を促すことにもつながります。継続して支援されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理できる方は、所持して頂き、出来ない方は、職員管理のもと預らせていただいている。また、希望時は、家族の協力や職員と一緒に掛付け買い物などの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の依頼や手紙の依頼がある時は、電話や手紙のやり取りが出来る様に支援している。また、年賀や暑中見舞いなど職員と一緒に作成したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、	木材を多く使用し、床はコルク素材で安全に考慮している。リビングではミニ運動会の実施や輪投げ・ボール蹴り・投げ、又ボランティア参加による催し物の実施等で楽しい空間づくりに努めている。各居室、自分の部屋がわかる様に工夫している。	共有フロアからは海が見え、反対の廊下の空間からは山の緑が見えて自然豊かな環境に囲まれて、明るい光がフロアいっぱい広がっています。玄関には手作りの紙雛人形が飾られ、廊下の壁には利用者と一緒に作成された作品が飾られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの方が、思い思いの場所で、ゆっくりと過ごされている。また、職員も一緒に会話を楽しんだり、利用者と一緒に過ごせる空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた物や好みの物を持ち込まれ、本人が在宅で過ごされていたような空間に近づけるように支援している。	衣装ケースや小物類は入所の際に持ち込まれており、利用者・家族の好みで居室の飾りつけもされているとのことです。信仰されている宗教画や写真カレンダーなど馴染みのものが飾られています。	利用者本人が落ち着いて過ごされる空間作りを継続して支援されることを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、わかる事を把握し、自立した生活が送れるように工夫し、支援している。		